（様式1） 新規評価総括表

事業種類	道路付帯施設の整備	事業名	県単交通安全施設等

建設部 道路管理課

番 号	市町村名	（ふりがな） 箇所名	事業概要	全体事業費 （千円）	H27 事業費 （千円）	完了 予定 年度	箇 所 評 価						部意見	行政改革課意見	現地調査	採択	備考
							必要性	重要性	効率性	緊急性	計画熟度	総合評価					
1	佐久市	(一)相浜本町線 小宮山	歩道設置工 L=240m W=2.0m	60,000	0	H30	B	B	B	B	B	B	現況道路幅員が狭く、見通しもよくないため、通学児童が危険な状態となっている。 安全な歩行者空間を確保するために、早期の歩道整備が必要である。	現況の交通量から必要性は認められる。		○	
2	上田市	(国)143号 上田原	歩道設置工 L=50m W=3.0m	20,000	0	H29	A	A	B	B	B	B	自動車交通量の多い路線であるが、この部分だけ歩道が抜けており、早急に安全確保を図る必要がある。 建物補償もなく、事業がスムーズに実施可能。	必要性、重要性が認められる。		○	
3	上田市	(一)荻窪丸子線 下和子	歩道設置工 L=40m W=2.0m	30,000	1,000	H30	B	A	B	B	B	B	交通量の多い路線であるが歩道がなく、この事業で横断歩道部のたまり場を設置し、横断歩道を渡る通学児童の危険を軽減できるため、事業実施の効果が高い。	重要性が認められる。		○	
4	中川村	(主)松川インター大鹿線 渡場	歩道設置工 L=80m W=2.0m	10,000	3,000	H28	B	A	A	B	B	B	リニア新幹線工事が本格化すると、ダンプトラック通行路線になるため、歩行者の危険性が増大する。 その前に、見通しの悪い交差点部の歩道整備を行い、安全性を確保する必要がある。	重要性が認められる。		○	
5	大町市	(主)大町麻績インター線 大平～矢下	歩道設置工 L=500m W=2.5m	70,000	2,000	H30	A	A	B	B	C	B	通学路であり、歩行者交通量が多い区間。 路肩が狭くカーブ区間であり見通しが悪いため、早期に歩道の整備を行い通学児童の安全を確保する必要がある。	必要性、重要性が認められる。		○	
合 計			5箇所	190,000	6,000												